

令和4年度

教職課程

自己点検評価報告書

東京都市大学

令和5年2月

東京都市大学 教職課程認定学部・学科等一覧

- ・理工学部（機械工学科、機械システム工学科、電気電子通信工学科、医用工学科、応用化学科、原子力安全工学科、自然科学科）
- ・情報工学部（情報科学科、知能情報工学科）
- ・メディア情報学部（社会メディア学科、情報システム学科）
- ・人間科学部（児童学科）
- ・総合理工学研究科（機械専攻、電気・化学専攻、共同原子力専攻、自然科学専攻、建築・都市専攻、情報専攻）

大学としての全体評価

東京都市大学の前身である武蔵高等工科学校は、「学びたい」という一心のもとで学生自らが支援者、教員、校地・校舎を探して創立された学園である。その後、学制改革により武蔵工業大学に昇格し、1954（昭和29）年に工学部3学科に中学校教諭1級普通免許状（数学・職業）と高等学校教諭2級普通免許状（数学・工業）の教職課程が設置されている。2009（平成21）年の東横学園女子短期大学との統合を経て、今日では、理工学部、情報工学部、メディア情報学部、人間科学部の4学部12学科と総合理工学研究科6専攻に、幼稚園教諭・中学校教諭・高等学校教諭を養成する教職課程を設置するまでに発展した。

学生たちの「学びたい」という強い思いが本学のルーツにあることに照らせば、産業界や学術界だけでなく、教育界にも優れた人材を輩出することは本学の社会的な使命の1つである。

今回の自己点検・評価では、全学的な組織である教職課程運営委員会が各学部教務委員会等と連携して、教職課程のもっとも基本的なことから、すなわち、学部・学科のカリキュラムポリシーやディプロマポリシーを踏まえた教職課程の目的や特色、育成をめざす教員像についての点検・評価に重点が置かれた。それにより、本学の教職課程の現状、とりわけ、教職教育の理念やカリキュラムの特色、教職課程運営上の課題、学生のキャリア支援などについて、学部・学科を越えて、共通理解や議論が深まったことは大きな成果である。今後も継続して、多角的に点検・評価を行い、さらなる質の向上を期したい。

東京都市大学

学長

三木千壽

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	3
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	3
	基準項目1-1 教職課程教育の目的・目標の共有	
	基準項目1-2 教職課程に関する組織的工夫	
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	9
	基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成	
	基準項目2-2 教職へのキャリア支援	
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	14
	基準項目3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施	
	基準項目3-2 実践的指導力育成と地域との連携	
III	総合評価	19
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	21
V	現況基礎データ一覧	22

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

大学名：東京都市大学

学部等名：理工学部 情報工学部 メディア情報学部 人間科学部
総合理工学研究科

所在地：東京都世田谷区玉堤 1-28-1

神奈川県横浜市都筑区牛久保西 3-3-1

学生数及び教員数（令和4年5月1日現在）

学生数： 理工学部 教職課程履修 120名／学部全体 2781名 （※1）

情報工学部 教職課程履修 44名／学部全体 866名 （※2）

メディア情報学部 教職課程履修 13名／学部全体 832名

人間科学部 教職課程履修 416名／学部全体 416名

総合理工学研究科（修士課程・博士前期課程）

教職課程履修 3名／研究科全体 659名

※1：旧・工学部を含む ※2：旧・知識工学部を含む

教員数： 理工学部 教職課程科目担当（教職・教科とも）60名／学部全
体 96名 （※3）

情報工学部 教職課程科目担当（教職・教科とも）15名／学部
全体 23名

メディア情報学部 教職課程科目担当（教職・教科とも）14名
／学部全体 21名 （※3）

人間科学部 教職課程科目担当（教職・教科とも）11名／学部
全体 14名

総合理工学研究科（修士課程・博士前期課程）

教職課程科目担当 33名／研究科全体 145名

※3：副学長は学部の教員数に含む

2 特色

東京都市大学は、1929（昭和4）年に創設された武蔵高等工科学校を母体としている。1949（昭和24）年の学制改革により武蔵工業大学に昇格後、「公正、自由、自治」を建学の精神とし、実学の充実に力点をおいた教育と実践的かつ先駆的な研究活動で、わが国の工業教育に尽瘁してきた。2009（平成21）年に「科学的、自主的、健全」な女子教育をめざす東横学園女子短期大学（1956年創設）との統合に際して東京都市大学と改称し、「持続可能な社会発展をもたらすための人材育成と学術研究」を理念とし、科学技術から生活福祉までの幅広い領域を網羅する大学、幼稚園から大学院までを擁する総合的な学園の中核として、現在に至っている。

このような伝統を有する本学の教職課程は、一般的な教育学部とは異なる特色を有している。すなわち、「ものづくりの思想とそれを支える科学や技術」「人間生活における科学技術の意義や役割」「高い専門性をもった豊かな人間性と国際的なセンス」「生涯発達の基礎としてのコミュニケーション能力や表現力」といった東京都市大学の特色ある教育実践や学問研究を活かしつつ、「持続可能な社会発展」という視点を備えた教員の養成こそが教職課程を設置する理由であるとともに、本学の社会的な使命と考えている。

<根拠となる資料・データ等>

・ Web 0 - 1 - 1 : 東京都市大学 学部・学科ごとの名称及び教育研究上の目的 等

<https://www.tcu.ac.jp/tcucms/wp-content/uploads/2022/03/20220325-623d4181f0b89.pdf>

・ Web 0 - 1 - 2 : 学生数

<https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/number/>

・ Web 0 - 1 - 3 : 専任教員数

<https://www.tcu.ac.jp/tcucms/wp-content/uploads/2022/08/20220808-62f0d93b99aff.pdf>

・ Web 0 - 1 - 4 : 東京都市大学学則(第 20 条)・東京都市大学大学院学則(第 14 条)

<https://www.asc.tcu.ac.jp/rules/>

・ Web 0 - 2 - 1 : 大学のウェブサイト 情報公開ページ

教職課程設置の趣旨、目標

<https://www.tcu.ac.jp/tcucms/wp-content/uploads/2022/06/20220601-6296b759ad68a.pdf>

II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

教職課程に関わる教職員がカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを踏まえて教職課程教育の目的・目標を共有し、育成を目指す教員像の実現にむけて協働的に取り組んでいる。

〔現状説明〕

本学では、建学の精神と開放制の原則にもとづいて、特色ある教員養成を行っている。それぞれの学部・学科（および大学院）に設置された教職課程は、学部・学科等の目的・性格と教員免許状との相当関係が適切であり、学位プログラムの目的や体系性と同時に教職課程としての目的や体系性にも配慮して特色ある教育課程を編成し、また、指導体制を整備している。近年、それぞれの学部・学科等においてカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの再確認が行われ、教職課程教育の目的や育成を目指す教員像についても、以下のような共通理解のもとで、関係する教職員が協働している。

◇理工学部では、「理論と実践」という教育理念のもと、社会に変革をもたらすための問いを生み出し、社会課題の解決に果敢に挑戦していく研鑽を積むことで、未来を切り拓く探究心、判断力及び実行力を持つ人材の養成を目指してディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを定めている。教職課程においては、理数教育に必須な数学、自然科学（物理、化学など）、科学技術（機械、電気など）の専門性を磨くとともに、持続可能な社会を実現する術を子どもたちと共に探究できるよう、幅広い教養、多様なコミュニケーション能力、自己が見出した課題を解決する姿勢などを身につける教育にも取り組んでいる。

◇情報工学部では、科学技術を基盤とした豊かで持続可能な社会の実現に向けて、情報工学に関する基礎から応用までの知識や技術を体系的に身につけ、それらを現実の問題に適用して解決できる能力を有する人材の養成をめざして、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを定めている。教職課程では、理数教育の中核となる数学および情報学に関する専門教育・研究を行うとともに、幅広い教養と生涯にわたる探究心を有し、課題に対してその本質に立ち戻って解決することができる教員の育成を目指している。

◇メディア情報学部では、ディプロマポリシーにおいて「専門分野と関連領域について学習し、情報と社会に係る事象について自然科学・社会科学両面から研究する力を修得」することを掲げ、そのためのカリキュラムポリシーを共有している。学部では「情報」の免許を取得できるが、社会メディア学科では、ソーシャルデザインとメディア・コミュニケーション

を専門的に学び、異なる文化や価値観を持つ人々とコミュニケーションする力を有した教員、情報システム学科では、プログラミング、ソフトウェア開発、情報ネットワーク技術などについて理解し、社会において情報技術を活用する能力に優れた教員の養成を目指している。

◇人間科学部（児童学科）では、「いのちを大切にし、平和と環境を保持し、人類の持続可能な発展に貢献できる」人材の養成を目指している。そのため、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーでは、高い専門性はもちろんのこと、柔軟な思考力や問題解決力、自己表現力、コミュニケーション力の育成が重視されている。教職課程においては、生涯発達の基盤となる乳幼児期の重要性を理解し、幼児期の教育・保育に関わる専門的な知識、豊かな感性と人間力、実践力を有する教員養成を目標とし、学部在職する全教育職員の連携、協働のもとに幼児教育・保育に関わる高い専門性を持った幼稚園教諭の育成を行っている。

◇総合理工学研究科（大学院）では、高度で幅広い理工学に関する理論と実践力を修得させて、学際的視野を持って応用力の涵養を図るとともに高い倫理観と国際性を備えさせることによって、科学技術に立脚した課題の発見と多角的視野から解決策を導くことで社会貢献ができる人材の養成を目的とし、教職課程（専修免許状）としての体系的にも配慮した教育課程を編成している。

〔長所・特色〕

◇理工学部では、「理論と実践」という学部の教育理念に沿って1～3年次の各学年に実験・実習科目と講義科目を系統的に配当し、4年次の卒業研究においてそれまでの「学び」を統合し、自らが見出した課題を解決することに取り組むことで、深い専門性が身に付くようなカリキュラムとなっている。教職課程を履修する学生たちは、そうした専門分野での「理論と実践」を深めながら、理数系及び技術・工業の教員免許の取得をめざすことが特色である。教育学の基礎や教科の指導法などは教職科目で学ぶが、専門科目での多様な実験・実習や「理論と実践」のなかで、教員に必須となるコミュニケーション力、多様な他者と連携・協働する力、未来を切り拓く探究心などが培われている。

◇情報工学部は、情報技術のさらなる高度化が求められる時代に対応し、「知の創造」を担う人材を養成するために設立された。そのため、学部共通の情報工学基盤科目や実験・実習・演習等の体験学習科目が充実している。これらを入学時から段階的かつ体系的に学ぶことを通じて、学生のアカデミックキャリアの早期からのプランニングと実践を支援するとともに、相互の多様性を認めつつ連帯感を持ちながら、主体的に課題・研究等に取り組む資質を養っている。今日、学校教育におけるICTの活用が様々に論じられているが、本学部の教職課程では、情報科学や知能情報工学の専門的な知識と技能を身につけた数学・情報の教員の育成をめざしていることが特色である。

◇メディア情報学部では、本学の定評ある工学や情報メディアに関する教育研究に加えて、社会科学やビジネスの視点を複合させて、現代の諸問題を考えて行くことのできる教員の養

成を目指しており、それを文理複合型の教育研究実施組織やカリキュラムによって下支えしている点が特色である。具体的には、社会メディア学科では、問題への社会科学的視点からの様々なアプローチと合わせて、情報技術やコンテンツ制作に習熟する機会が豊富にあり、情報システム学科では、必要とされる情報システムを広い社会的・組織的な観点でアセスメントできる能力を育成するプログラムが用意されている。

◇人間科学部（児童学科）では、学部の教育課程を通して、子どもの健やかな成長を促す人間性、倫理観、責任と自覚を持ち、その能力を常に高めていく意欲を有する教職、保育人材の育成を到達目標として掲げている。とりわけ、今日の幼稚園教諭に求められる資質として、幼児教育・保育の現場の多様なニーズに応えるための柔軟な思考力、課題解決力、自己表現力、コミュニケーション力の育成に力点を置き、幼稚園教諭一種免許状の養成課程に求められる各専門分野の専任教員を配するとともに、学部に在職する全教育職員の連携・協働のもとに幼児教育に特化した専門職人材の育成を行っていることが特色である。

◇総合理工学研究科（大学院）では、6つの専攻毎に知識と実践力を養う専門基礎及び専門科目群を編成し、理科・技術（中学校）、理科・工業・情報（高等学校）の教職課程を構成するとともに、英語力、情報活用能力、国際感覚養成のための総合教養科目群と総合基礎科目群を編成し、実習や特別研究を通じた課題発見、問題解決能力の養成に努めている。

〔取り組み上の課題〕

◇理工学部には、7学科に教職課程が設置されているが、教職課程を履修する学生数などには違いがある。教職課程への共通理解を深め、さらに充実させるために、2021年度に理工学部教務委員会と共通教育部教職教育部門で「意見交換会」を実施した。今後も特色ある教員養成を行い、社会的な責任を果たし続けるには、共通教育部の教職教育部門（教職課程）との連携・協働が不可欠であり、こうした「意見交換会」を定期的に開催し、さらなる教職課程教育の充実をめざす。

◇情報工学部では、学部を構成する2学科（情報科学科と知能情報工学科）による「情報工学部教育プログラム相互点検会議」を毎年、開催している。この会議は、各々の教育プログラムにおいて迅速な教育改善活動を推進することを目的としている。教職課程に関する教育改善についても、当会議にて継続的に検討していく必要がある。

◇メディア情報学部では、新入生ガイダンス時の「教職課程ガイダンス」において、教職課程の特色や仕組み、育成を目指す教員像が説明されている。「教職課程ガイダンス」に参加する学生は少なくないものの、「単位の実質化」に伴う学修時間の確保の困難さ、「情報」に係る教員の採用枠が限定的であることなどから、実際に高等学校一種免許状（情報）を取得する学生が減少傾向にあることが課題である。また、「教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み」を推し進めるために、例えば新着任の教職員に対する教務ガイダンスにおいても、教職課程に関する説明を拡充するなどの工夫が求められ

る。

◇人間科学部児童学科では、幼稚園教諭一種免許状の養成課程に求められる各専門分野の専任教員を配し、学部にて在職する全教育職員の連携・協働のもとに幼児教育に特化した教職・保育人材の育成を行っている。そのため、教員養成の目的や育成を目指す教員像については教員間のコンセンサスが得やすい。一方で、幼稚園教諭、保育士の養成にかかる専門科目の修学上の内容の重複等については、教員間で教授内容の調整や確認を図り、学生の学修満足度や教育達成度を向上させていく必要がある。

◇総合理工学研究科（大学院）では、グローバルに活躍する人材が益々求められる時代との認識に立ち、幅広い専門性と教養の涵養、英語での活動能力拡大の機会の提供を課題として取り組んでいる。次の世代の育成に携わる教職の課程とも通ずる課題であり、関係教職員で協働していく。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1-1-1：理工学部・建築都市デザイン学部合同教務委員会議事録(第 16 号)
- ・資料 1-1-2：情報工学部教育プログラム相互点検会議規程
- ・Web 1-1-1：

東京都市大学アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー体系図

https://www.tcu.ac.jp/tcucms/wp-content/uploads/files/systemdiagram_3policy.pdf

- ・Web 1-1-2：東京都市大学人間科学部サイト

<https://www.tcu.ac.jp/academics/humanlife/>

基準項目 1－2 教職課程に関する組織的工夫

教職課程の運営に関して、教職課程全体を統括する全学的な組織、各々の教職課程を設置している学部・学科等の組織、学部・学科等の枠を越えて教職課程教育を担う教員の組織、教職課程の事務等を担う職員の組織の四者で、適切な役割分担を図っている。

〔現状説明〕

本学では、教職課程全体を統括する全学な組織として「教職課程運営委員会」が設置されている。同委員会の構成員は、中等教育教諭養成教職課程の責任者（「中等教育教諭養成教職課程運営委員会委員長」）、幼稚園教諭養成教職課程の責任者（「人間科学部教務委員会委員長」）、大学全体の教務責任者（「教務委員長」）、教職課程を設置している学部や研究科の教務責任者（各学部・研究科の教務委員長）、加えて、学部・学科の枠を超えて教職課程教育を担当する教員（共通教育部・教職教育部門に所属する教員）である。

こうした構成から明らかなように、教職課程に関する全学的で大綱的な事項は教職課程運営委員会が所掌し、その上で、それぞれの免許種に固有の事項は、中等教育教諭養成教職課程運営委員会ならびに人間科学部教務委員会が取り扱う。また、日常的な教職課程の運営については、教職課程を設置する学部・学科の教務委員会と共通教育部の教職教育部門の教員、そして教育支援部の教職課程担当職員が協働しておこなっている。なお、全学的な「教職課程の教育課程、教育研究実施組織、教育実習ならびに施設及び設備の状況に係る全体の自己点検及び評価に関する事項」については、教職課程運営委員会が所管している。

また、教育職員免許法施行規則第26条の6に基づく情報の公表も、教職課程運営委員会がインターネットを利用して行っている。

〔長所・特色〕

本学における「教職課程運営委員会」の特色は、通常は学部単位で行われている中等教育教諭養成（理工学部、情報工学部、メディア情報学部）と幼稚園教諭養成（人間科学部）の教職課程について、全学的な教員養成の理念や目標、特色、あるいは本学の社会的な役割という視点から議論し、共通理解を深めながら取り組むことができる点にある。そのために、教職課程を設置する各学部の教務委員長を構成員とし、教職課程の実務や動向に詳しい共通教育部・教職教育部門の教授がまとめ役（委員長）となっている。

他方で、中等教育教諭養成（理工学部、情報工学部、メディア情報学部）と幼稚園教諭養成（人間科学部）のそれぞれの内容や実情に即して取り扱うことが適切な事項については、「中等教育教諭養成教職課程運営委員会」と「人間科学部教務委員会」に分かれて専門的に扱っている。それらの委員会では、教員免許状の専門性（中学校教諭：数学・理科・技術、高等学校教諭：数学・理科・工業・情報、幼稚園教諭）に即した委員（「教科に関する専門的事項」を担当する教員等）を構成員として、学校種・免許種に応じた研究協議を行い、教職課程の運営の活性化と円滑化が図られている。

〔取り組み上の課題〕

本学における教職課程は、いわゆる「学科相当性」にもとづいて設置され、「教職課程認定基準」に定められた必要教職専任教員数を充足するように配置して、適切な協働体制を整えている。他方で、年月の経過に伴う教員の入れ替わりや学科のカリキュラム改訂によって、教職課程を設置した当初の理念やねらい、あるいは学科のカリキュラムと教職課程のカリキュラムとの連動等が知らず知らずのうちに薄れてしまうという問題も生じてくる。学科等に教職課程を設置した基本的な理念や構想を再確認しながら、無理なく継続、さらには改善していく仕組みづくりと活動が求められる。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1-2-1：東京都市大学教職課程運営委員会規程
- ・資料 1-2-2：東京都市大学中等教育教諭養成教職課程運営委員会規程
- ・資料 1-2-3：東京都市大学人間科学部教務委員会規程
- ・資料 1-2-4：教職課程運営委員会委員一覧
- ・資料 1-2-5：中等教育教諭養成教職課程運営委員会委員一覧
- ・資料 1-2-6：人間科学部教務委員会委員一覧

- ・Web 1-2-1：大学案内 > 情報公開（各種データ）> 教員養成の状況
<https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/>

.....

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

教職への意欲を高め、教職課程での学修への理解を深めるためにガイダンス等を実施し、また、教職課程を継続できるように学生への指導を適切に行っている。

〔現状説明〕

◇中等教育教諭養成（理工学部、情報工学部、メディア情報学部）

本学では、新入生オリエンテーションの一環として、キャンパスごとに教職課程ガイダンスを実施し、教師という仕事のやり甲斐や特質、本学教職課程の特色や仕組み等を新入生にも理解できるように説明している。「将来、教師になるかどうかはわからないが、資格は取っておきたい」という学生も少なくはないが、「単位の実質化」が進められる今日、十分な予習・復習が求められることは、教職課程も例外ではない。卒業に必要な「124 単位」に加えて、教職科目の学修をやり遂げ、教員採用試験をパスするには、本人の意欲や努力はもちろんのこと、計画的な履修やさまざまな準備が必要である。

そのために、本学教職課程では、入学時の新入生ガイダンスを始めとして、介護等体験や教育実習のためのガイダンス、教員免許状一括申請ガイダンスなどを教職教育部門の教員と教育支援センターの職員とが協働して実施している。他方で、意欲をもって学びはじめた教職課程であっても、大学生活が進むに連れて、学科の専門科目等で忙しくなったり、別のことに興味が出てきたりして、継続に問題が生じる場合がある。そうした学生に対しては、教職部門の教員や教育支援センターの職員が個別の事情に即して、適宜、丁寧な教職指導を行っている。

◇幼稚園教諭養成（人間科学部）

人間科学部児童学科では、学科のディプロマポリシー、カリキュラムポリシーにおいて、人間形成の基礎にあたる幼児教育・保育に関する高い専門性を持った教育・保育人材の育成を掲げている。そのため、学科への入学時点において教員免許状の取得を前提とした修学目標を立てている学生が多く、卒業時においても在籍学生の 9 割以上が幼稚園教諭一種免許状の取得に必要な教育課程を修め、教員免許状の取得に至っている。

教員養成課程の実際の運用においては、教員免許状の取得に必要な教育課程の履修モデルを、学修要覧を通じて学生に提示するとともに、教職課程に関わる各専門科目における教育活動を通じて、教職人材に必要な資質・能力の養成に尽力している。

〔長所・特色〕

◇中等教育教諭養成（理工学部、情報工学部、メディア情報学部）

本学では、3つの学部（理工学部、情報工学部、メディア情報学部）に中等教育教諭養成課程がある。世田谷キャンパスにおいては、理工学部の機械工学科、機械システム工学科、電気電子通信工学科、医用工学科、応用化学科、原子力安全工学科、自然科学科、情

報工学部の情報科学科、知能情報工学科の学生が、教職科目では机を並べて学んでいる。加えて、横浜キャンパスにあるメディア情報学部の社会メディア学科、情報システム学科の学生が世田谷キャンパスの科目を遠隔で受講することも多い。このことは、普段はそれぞれの学部・学科あるいはキャンパスにおいて、専門的な教育を受けている学生たちが、学部・学科やキャンパスの壁を越えて、めざす教員免許の教科や免許種を越えて、教師を志す仲間と出会い、切磋琢磨していることを意味し、本学での教職課程（中等教育教諭養成）の大きな特色となっている。それゆえ、教職を担う学生の確保や育成についても、1つの学部・学科だけで実施するのではなく、学科を横断して、広い視野から実施している。

また、理工学系の学部の特色として、教職課程で学んだ学生であっても、大学院への進学を希望する学生や企業（産業界）へ就職する学生が多い。教員免許を取得しても、すぐに教員にならないのは残念ではあるが、実社会（企業等）を経験してから教育界に転身・活躍する卒業生も増えているのが実情である。

◇幼稚園教諭養成（人間科学部）

人間科学部（児童学科）では、幼稚園教諭一種免許状および保育士資格の取得をめざして入学してくる学生が大半を占めるが、単に免許取得に必要な科目を置くだけではなく、今日の幼児教育・保育の現場において求められる資質・能力を育成するために必要となる教育体制、教育施設の充実に力を入れている。家庭や地域社会における子育て支援の充実が強く求められる今日において、教職課程として法的に定められた教育実習や保育実習だけでは不足する部分があるからである。それゆえ本学では、子育て支援の実践力を身につけるための特色ある科目「子育て支援演習」（4年次）を設置している。この科目は、キャンパス内に開設された「地域に開かれた子育て支援施設（ぴっぴ）」での実習・演習を通して、親子の関わりや子育て支援の実際を直に学び、今日の幼児教育者に求められる、子育て支援の専門家としての力を育むことをめざしている。

〔取り組み上の課題〕

◇中等教育教諭養成（理工学部、情報工学部、メディア情報学部）

必要なガイダンスや手続きを経ることで、2年次以降であっても、教職課程の履修を開始することはできる。しかしながら、1年次より計画的に履修をしていかないと必要な単位数を修得することができず、学部を卒業するときに教員免許を取得することが難しくなる。また、学部・学科の他のプログラムなどとの兼ね合いで、現実問題として、教職課程の継続が難しくなる場合もみられる。自分のやりたことや進路をよく考えて、学生自身が「選択」していくことが重要となる。他方で、理工系の学生には、教員免許を取得しても、卒業後は大学院へ進学したり、まずは専門を活かしてエンジニアとして働きたいと希望したりする学生も少なくない。「開放制の教職課程」という原則に立ちながら、学生の希望や適性を大事にした進路選択を促す教職指導が課題である。

◇幼稚園教諭養成（人間科学部）

人間科学部児童学科に在籍する学生の大半は、幼稚園教諭一種免許状、保育士資格の

取得をめざして入学してくるが、幼児教育や保育に関する専門知識を学び、教育実習・保育実習を通して現場に関わっていく過程で、学生自身の将来のビジョンやキャリアとしての適性に迷いが生じることもある。こうしたケースについて、学生の希望や悩みあるいは適性に寄りそった、幅の広い進路指導が必要になってくる。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 2-1-1 : 教職課程ガイダンス (理工学部・情報工学部) スケジュール
- ・資料 2-1-2 : 教職課程ガイダンス (メディア情報学部) スケジュール
- ・資料 2-1-3 : 教職課程ガイダンス (理工学部・情報工学部) 資料 (その 1)
- ・資料 2-1-4 : 教職課程ガイダンス (理工学部・情報工学部) 資料 (その 2)
- ・Web 2-1-1 : 「理工学部・情報工学部 教職課程」
(『令和 4 年度 学修要覧 理工学部』、pp. 220-255)

<https://www.asc.tcu.ac.jp/wp-content/uploads/sites/22/2022/04/96f0dcbfeeca7662e93f8fdc1377c44f.pdf>

- ・Web 2-1-2 : 「理工学部・情報工学部 教職課程」
(『令和 4 年度 学修要覧 情報工学部』、pp. 116-151)

<https://www.asc.tcu.ac.jp/wp-content/uploads/sites/22/2022/04/48cca1d90aa3c8b386fe90c81314e2fa.pdf>

- ・Web 2-1-3 : 「メディア情報学部 教職課程」
(『令和 4 年度 学修要覧 メディア情報学部』、pp. 113-124)

<https://www.asc.tcu.ac.jp/wp-content/uploads/sites/22/2022/04/0cb7237324b5d40678d5f1f66c2311c9-1.pdf#page=118>

- ・Web 2-1-4 : 「人間科学部：人材の養成及び教育研究上の目的」
「カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー」
「人間科学部について」
(『令和 4 年度 学修要覧 人間科学部』、pp. 47-50)

<https://www.asc.tcu.ac.jp/wp-content/uploads/sites/22/2022/04/fd06a17ce82741eae823ad66d2307f2f.pdf#page=50>

- ・Web 2-1-5 : 「教育目標と授業科目との関連図、履修モデル、履修系統図」
「幼稚園教諭一種免許状の取得について」
(『令和 4 年度 学修要覧 人間科学部』、pp. 68-81)

<https://www.asc.tcu.ac.jp/wp-content/uploads/sites/22/2022/04/fd06a17ce82741eae823ad66d2307f2f.pdf#page=71>

- ・Web 2-1-6 : 東京都市大学人間科学部サイト
<https://www.tcu.ac.jp/academics/humanlife/>
- ・Web 2-1-7 : 子育て支援センター ぴっぴ サイト
<http://pippi.child.tcu.ac.jp/>

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

学生の意欲やニーズ、適性に応じた各種情報の提供やキャリア支援を行っている。

〔現状説明〕

◇中等教育教諭養成（理工学部、情報工学部、メディア情報学部）

学生からの教職課程に関する相談は、共通教育部教職教育部門の教員と教育支援センターの教職課程担当職員を中心に随時、対応している。加えて、世田谷キャンパス図書館の1階フロアに「学習相談」コーナーを設け、学校現場に精通した教職教育部門の教育講師がアドバイスにあたっている。

教員を第一志望とする学生に対しては、正規の授業の他に、「教員採用試験対策ゼミ」（教職教育部門の教員が担当）を開設している。3年生を中心に8名程度の学生が学んでおり、そのなかから毎年、教員採用試験の合格者が出ている。その他にも、各種の学校支援ボランティアや自治体が行う「教師養成塾」に関する情報を積極的に紹介したり、4年生が後輩に経験談を語ったりする機会を設けるなどしている。また、数科目の単位不足で、卒業時に教員免許状の取得に至らなかった学生が卒業後も「科目等履修生」として学び続ける事例もある。

◇幼稚園教諭養成（人間科学部）

幼児教育・保育について専門的に学ぶという目的意識を持った学生が多数を占める人間科学部児童学科においては、9割以上の学生が幼稚園教諭一種免許状および保育士資格を取得して卒業していく。卒業生の多くは、幼稚園教諭、保育士、児童福祉施設職員として活躍している。教育・福祉職への就職は、一般企業とは異なる部分も多いため、学科内にキャリア委員会を置き、大学のキャリア支援センターと協働しながら、学生の意欲やニーズ、適性に応じた支援を行っている。

〔長所・特色〕

◇中等教育教諭養成（理工学部、情報工学部、メディア情報学部）

上述の「教員採用試験対策ゼミ」の目的は「教員採用試験に合格すること」ではあるが、単に合格するためのテクニックを伝授するものではなく、授業づくりや学級づくりについて実践的・協働的に学び、学生たちを「生徒の成長を手助けできる教員へと育成していくこと」をねらいとしているのが特色である。

◇幼稚園教諭養成（人間科学部）

就職活動の流れについては、学期初めのオリエンテーションにおいて、学科のキャリア委員がガイダンスを行っている。教育・福祉職をめざす学生への支援としては、教育・福祉の現場で活躍する卒業生を招いて話を聞く機会を設けたり、各市区町村の幼稚園協会が主催する「合同就職説明会」への参加を促したりしている。また、教育・福祉分野の公務員をめざす学生のために「公務員試験対策講座」を設けている。

〔取り組み上の課題〕

◇中等教育教諭養成（理工学部、情報工学部、メディア情報学部）

理工系の学生には、学部において教員免許を取得しても、卒業後は大学院へ進学したり、専門を活かしてエンジニアとして働きたい、と希望したりする学生が少なくない。「開放制の教職課程」という理念に立ちながら、「学生の希望や適性を活かした進路選択」を促すような教職指導が求められる。

◇幼稚園教諭養成（人間科学部）

卒業生の教育・福祉職への就職先としては「私立保育園」が多く、「私立幼稚園」「私立認定こども園」は少ない傾向がある。公務員についても、保育・福祉職における採用が多く、「公立幼稚園」への就職例は限定的である。社会的な状況と動向を見据えながら、「私立幼稚園」「私立認定こども園」だけでなく、「公立幼稚園」への進路を拡大していく必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・ Web 2 - 2 - 1 : 卒業生の教員免許状の取得状況、就職状況

<https://www.tcu.ac.jp/tcucms/wp-content/uploads/2022/06/20220601-6296b789920e6.pdf>

- ・ Web 2 - 2 - 2 : 就職者数・進学者数

<https://www.tcu.ac.jp/recruiting/result/number/>

- ・ Web 2 - 2 - 3 : 主な就職先・業種別就職状況

<https://www.tcu.ac.jp/recruiting/result/industrytype/>

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

学部・学科等の目的を踏まえ、教職課程以外の科目との関連性や系統性の確保を図りながら、特色ある教職課程カリキュラムを適切に編成・実施している。

〔現状説明〕

◇中等教育教諭養成（理工学部、情報工学部、メディア情報学部）

本学の教職課程（中等教育教諭養成）は、理工系学部・学科の特色を活かして、一般的な教育学部にはあまりみられない、専門性豊かな内容が「教科に関する専門的事項」として配置されていることが特色である。数学、理科だけでなく、技術や工業、情報の教員免許が取得できることも特筆されよう。「教職課程認定基準」に定められた必要教職専任教員数を充足するように配置していることはもちろんであるが、とりわけ、教職教育においては研究者教員（教育行政や政策に詳しい）と実務家教員（学校現場での実務経験を有する教員）が協働して、理工系の学部・学科で培った専門性を教育の場で実践できるような教員の養成をめざしている。

理工系学部の伝統を有する本学には多様な実験や実習ができる施設・設備が充実しており、数学、理科、技術、工業、情報の教員としての専門性を深める上で有益な環境が整っている。図書館には、理工系の専門書はもちろんのこと、中学校・高等学校の教科用図書や「学習指導要領」「同解説」をはじめ、教育関連雑誌など豊富な蔵書がある。教科教育法や教職実践演習では、それらの施設・設備・蔵書を活用した演習的な要素を取り入れた授業を行い、学生の「実践的指導力」を高めようとしている。

◇幼稚園教諭養成（人間科学部）

人間科学部児童学科の教育課程は、「幼稚園教諭一種免許状」ならびに「保育士資格」の取得ができるように編成されている。すなわち、科目の配置・編成、担当教員、科目内容、到達目標、評価基準、評価方法、使用テキストを含め、所轄官庁が定める基準等に準拠している。

そうした両課程のカリキュラムの系統性や関連性を踏まえながら、学科独自の「子育て支援」、「生活と自然」、「異文化理解」、「児童文化」、「自己表現」に関わる多様な参加体験型のプログラムを用意し、次世代の幼児教育・保育の担い手に欠かすことのできない「実践力」を培うことを目指している。

〔長所・特色〕

◇中等教育教諭養成（理工学部、情報工学部、メディア情報学部）

4年次の「教育実習」は、学部・学科ならびに教職課程で学んだ専門的な知識・理論・技術等を、学校現場において体験的・総合的に理解して、教育を実践するための基礎的な能力と態度を身につける重要な学習機会である。本学では、そうした教育実習の重要性に鑑みて、教職課程を設置する学科の教員（多くは実習を行う学生が所属する研究室の教員）

が原則としてすべての学生の教育実習校を訪問し、指導を行っている。また、なんらかのトラブルがあった場合には、教職教育部門の教員が迅速に、また、臨機応変に対応・指導する体制を整えていることが特色である。こうした体制は、教職課程カリキュラムの実効性を高める上で有効と考えているが、教員養成における「理論と実践の架橋と往還」をめざし、さらなる改善をめざしていきたい。

◇幼稚園教諭養成（人間科学部）

人間科学部児童学科の教育課程は、総じて、子どもの健やかな成長を促す人間性を養うことをめざしており、また、各々の「専門科目」は、入門・基礎・応用・卒業研究・その他の各レベルに分類され、学年が進行するにつれて、専門性や実践性が高まっていくよう系統づけられている。また、前述のように学科独自の「子育て支援」、「生活と自然」、「異文化理解」、「児童文化」、「自己表現」に関わる多様な参加体験型のプログラムを通じて、次世代の幼児教育・保育の担い手に必要となる「実践力」の養成が行われていることが特色である。

〔取り組み上の課題〕

◇中等教育教諭養成（理工学部、情報工学部、メディア情報学部）

学部・学科では、さまざま特色ある科目やプログラムを設置し、学部・学科としての魅力を打ち出そうとしている。結果として、卒業のために必要な単位の他に、教職課程を履修する学生は、学科のプログラムと教職課程のプログラムがバッティングしてしまったり、時間割がタイトになって、十分な予習復習の時間がとれなくなったりするケースも出てきている。また、「工業」「技術」などの免許取得をめざす学生は少なく、年によっては履修者がおらず、非開講になる科目もある。こうした状況を踏まえて、本学の中等教育教員養成の特色をどのように維持・発展させていくかが課題である。

◇幼稚園教諭養成（人間科学部）

人間科学部児童学科の教育課程は、「幼稚園教諭一種免許状」と「保育士資格」の両方を取得できるように編成されているが、それぞれの免許・資格のための学習を充実させようとするあまり、科目内容等が増加する傾向がある。学修内容の定着や単位の実質化が課題である。人間科学部児童学科においてはCAP制を敷き、半期の履修上限単位数を定めることによって単位の実質化を図っているが、学修内容の定着と単位の実質化について、学生の実情を踏まえた継続的な取り組みが求められる。

<根拠となる資料・データ等>

- ・ Web 3 - 1 - 1 : 「理工学部・情報工学部 教職課程」
(『令和4年度 学修要覧 理工学部』、pp. 220-255)

<https://www.asc.tcu.ac.jp/wp-content/uploads/sites/22/2022/04/96f0dcbfeeca7662e93f8fdc1377c44f.pdf>

- ・ Web 3 - 1 - 2 : 「理工学部・情報工学部 教職課程」

(『令和 4 年度 学修要覧 情報工学部』、pp. 116-151)

[https://www.asc.tcu.ac.jp/wp-](https://www.asc.tcu.ac.jp/wp-content/uploads/sites/22/2022/04/48cca1d90aa3c8b386fe90c81314e2fa.pdf)

[content/uploads/sites/22/2022/04/48cca1d90aa3c8b386fe90c81314e2fa.pdf](https://www.asc.tcu.ac.jp/wp-content/uploads/sites/22/2022/04/48cca1d90aa3c8b386fe90c81314e2fa.pdf)

- ・ Web 3 - 1 - 3 : 「メディア情報学部 教職課程」

(『令和 4 年度 学修要覧 メディア情報学部』、pp. 113-124)

[https://www.asc.tcu.ac.jp/wp-](https://www.asc.tcu.ac.jp/wp-content/uploads/sites/22/2022/04/0cb7237324b5d40678d5f1f66c2311c9-1.pdf#page=118)

[content/uploads/sites/22/2022/04/0cb7237324b5d40678d5f1f66c2311c9-1.pdf#page=118](https://www.asc.tcu.ac.jp/wp-content/uploads/sites/22/2022/04/0cb7237324b5d40678d5f1f66c2311c9-1.pdf#page=118)

- ・ Web 3 - 1 - 4 : 「人間科学部：人材の養成及び教育研究上の目的」

「カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー」

「人間科学部について」

(『令和 4 年度 学修要覧 人間科学部』、pp. 47-50)

[https://www.asc.tcu.ac.jp/wp-](https://www.asc.tcu.ac.jp/wp-content/uploads/sites/22/2022/04/fd06a17ce82741eae823ad66d2307f2f.pdf#page=50)

[content/uploads/sites/22/2022/04/fd06a17ce82741eae823ad66d2307f2f.pdf#page=50](https://www.asc.tcu.ac.jp/wp-content/uploads/sites/22/2022/04/fd06a17ce82741eae823ad66d2307f2f.pdf#page=50)

- ・ Web 3 - 1 - 5 : 「教育目標と授業科目との関連図、履修モデル、履修系統図」

「幼稚園教諭一種免許状の取得について」

(『令和 4 年度 学修要覧 人間科学部』、pp. 68-81)

[https://www.asc.tcu.ac.jp/wp-](https://www.asc.tcu.ac.jp/wp-content/uploads/sites/22/2022/04/fd06a17ce82741eae823ad66d2307f2f.pdf#page=71)

[content/uploads/sites/22/2022/04/fd06a17ce82741eae823ad66d2307f2f.pdf#page=71](https://www.asc.tcu.ac.jp/wp-content/uploads/sites/22/2022/04/fd06a17ce82741eae823ad66d2307f2f.pdf#page=71)

- ・ Web 3 - 1 - 6 : 東京都市大学人間科学部サイト

<https://www.tcu.ac.jp/academics/humanlife/>

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

教育界の最新の動向を学生が理解する機会を設け、地域や学校・教育委員会等と連携しながら、学生の実践的指導力の育成を図っている。

〔現状説明〕

◇中等教育教諭養成（理工学部、情報工学部、メディア情報学部）

教育界の最新の動向を学生が理解する機会として、「教職実践演習」の時間などで特色ある教育を行っている学校の参観を行う機会をつくとともに、実践的指導力の育成の観点から模擬授業（教育実習で行った研究授業の再演とディスカッション）や教具・教材の作成などを行い、教壇に立つ上で必要な最低限の資質能力の育成・確認を行っている。また、意欲のある学生に対しては、近隣の学校での各種のボランティアや自治体の「教師塾」等への参加を奨励している。

◇幼稚園教諭養成（人間科学部）

家庭や地域社会における子育て支援の充実が強く求められる今日において、子育ての実情を知り、実践力を磨くためには、法令等で教育課程に定められた「教育実習」や「保育実習」だけでは不足する部分がある。それを補うために人間科学部児童学科では、地域に開かれた子育て支援施設「ぴっぴ」を設置している。2年次から4年次にかけて履修する「子育て支援演習」において、学生たちは「ぴっぴ」に入り、親子の関わりや子育て支援の実際を直に学ぶ。このような地域に開かれた子育て支援施設の運用を通して、自治体との連携を図るとともに、学生の実践的指導力を育成している。

〔長所・特色〕

◇中等教育教諭養成（理工学部、情報工学部、メディア情報学部）

教職教育部門の教授2名のうち1名は、キャンパスが所在する2つの自治体で「教育委員」「社会教育委員」「条例で設置する審議会委員」等を歴任しており、もう1名は高等学校教員として10年のキャリアを有し、教科教育研究において指導的な役割を果たしてきた。そうした経験や人脈を活かして、「教育界の最新の動向」をさまざまなかたちで取り入れた学習機会を提供し、希望する学生には正規の教育実習の他に、学校支援ボランティアの機会を斡旋し、実践的指導力の育成を図っている。

◇幼稚園教諭養成（人間科学部）

2004年6月に全国の大学に先駆けて開設された子育て支援施設「ぴっぴ」は、多様な子育て支援のあり方を重視した「地域密着型の体験学習の場」として人間科学部児童学科の魅力の1つとなっている。「ぴっぴ」は、親子が思い思いに自由な時間を過ごすことのできる遊び場であるのみならず、子育て中の親同士の貴重なコミュニケーションの場でもある。児童学科の学生は「ぴっぴ」での「子育て支援演習」を通じて、親子の関わりや子育て支援の実際を学び、教育・保育人材に求められる実践的指導力を高めている。

〔取り組み上の課題〕

◇中等教育教諭養成（理工学部、情報工学部、メディア情報学部）

地域や学校・教育委員会等との連携は、現在のところ、教員個人ベースの繋がりにウエイトがあり、それらを今後、大学の教育課程の中にどのように位置づけ、持続可能なものとするかが課題である。

◇幼稚園教諭養成（人間科学部）

子育て支援施設「ぴっぴ」を基点とした地域社会への子育て支援と、支援の現場を活用した在籍学生の専門性と実践力の向上を両立させるためには、「ぴっぴ」利用者に対する本学における子育て支援施設の位置づけの説明や単位時間における学生の「ぴっぴ」への受け入れ人数など、きめ細やかな対応が求められる。人間科学部児童学科では、「ぴっぴ」会議を定例（月1回）で開催しているが、地域貢献活動と学生への教育をさらに向上させていくために、継続的な議論と工夫が必要である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・Web 3-2-1：世田谷区大学生ボランティアによる区立小・中学校等への教育活動支援について

<https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuji/kodomo/005/005/002/d00152103.html>

- ・Web 3-2-2：横浜市 よこはま教育実践ボランティア

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kyoiku/bosyusaiyou/volunteer/jissenvolu.html>

- ・Web 3-2-3：横浜市 よこはま教師塾アイ・カレッジ

https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kyoiku/bosyusaiyou/i_college/

- ・Web 3-2-4：千葉県 ちば！教職たまごプロジェクト

<https://www.ice.or.jp/nc/shien/tamago/>

- ・Web 3-2-5：子育て支援センター ぴっぴ サイト

<http://pippi.child.tcu.ac.jp/>

Ⅲ. 総合評価

◇中等教育教諭養成（理工学部、情報工学部、メディア情報学部）

本学の理工学部、情報工学部、メディア情報学部における教員養成は、本学の伝統である「ものづくりの思想とそれを支える科学や技術」「科学技術を基盤とした豊かで持続可能な社会の実現」を視点に備えた中学校・高等学校教員をめざしており、この点において、他大学の教育学部とは異なる特色を有している。「学校が社会や世界と接点を持ちつつ、多様な人々とつながりを保ちながら学ぶことのできる、開かれた環境となることが不可欠である」（中央教育審議会・初等中等教育分科会「2030年の社会と子供たちの未来」）といわれている今日、科学技術に関する専門性を有する卒業生を教育界に送り出していることは、まさに本学の社会的な使命を果たすものとして、評価されるべきと考えている。

また、中等教育教諭を目指す学生たちが、コロナ禍の試練を経て、学部・学科の壁を越え、ICTを活用するなどしてグループワークやディスカッションを行うことが当たり前になりつつある。そうした特色は、さらに発展させていきたい。

他方で、理工系学部で教職課程を学んでいる学生たちには、教壇に立つ前に、企業等でエンジニアとして仕事をしたいと希望する学生も少なくない。そうした学生たちは、これまでは視界から外れがちであったが、学校や教育への理解のある市民を育成しているという観点から、また、実社会で専門性や社会性に磨きをかけた教員を供給するという観点からも意味のあることであり、本学の中等教育教諭養成教職課程の特色と役割を確かなものにするであろう。

◇幼稚園教諭養成（人間科学部）

人間科学部は「いのちを大切にし、平和と環境を保持し、人類の持続可能な発展に貢献できる」人材の養成を目指している。教職課程においては、生涯発達の基盤となる乳幼児期の重要性を理解し、幼児期の教育・保育に関わる専門的な知識はもちろんのこと、「豊かな感性と人間力、実践力」を有する教員の養成をめざしている。そのために、教職課程コアカリキュラムを満たすだけでなく、学内に子育て支援施設「ぴっぴ」を開設し、学生の専門性と実践力の向上と地域社会での子育て支援の両立をめざした特色ある取り組みを行っている。この点は、他大学にはない、本学ならではの特色であり、その成果については今後、検証していきたい。

なお、令和5年度から人間科学部「児童学科」は、学科の名称を「人間科学科」へと変更予定であるが、教員養成を主たる目的とすることにはなんら変わりがない。今後は、「人間科学」というより大きな観点からも、教職課程の点検・評価を進めて行くことが求められよう。

◇全体を通して

今回の「自己点検・評価」では、本学における教員養成の「強み」（特色）はどこにあるのかを共通理解をすることに力点が置かれた。点検評価のプロセスを通じて、それぞれの学部・学科のディプロマポリシーならびに目指す教員像を確認し、さまざまな観点から

議論をする機会として、有効であったとすることができる。

端的に言えば、本学に設置された中等教育教諭と幼稚園教諭の養成課程が本学の伝統を踏まえながら、時代・社会の要請に応えながら、とりわけ、本学が重視している「理論と実践」という教育理念のもとで、専門性と実践力のある教員を養成しようとしていることを再確認することができた。教職課程に係る組織や教育課程等も法令に準拠しながら、適切に運営されている。

他方で、学科で深めた専門性をどのように教育実践に活かしていくかという、いわゆる「理論と実践の往還」の問題を、エビデンスと共に具体的に検証していくところまでは至らなかった。そうした観点からの「自己点検・評価」は、次年度以降に「PDCAサイクル」を回しながら、少しずつ進めていきたい。

また、近年本学では、各学部・学科において、それぞれ特色ある教育研究活動をしているだけでなく、全学的に「ゲームチェンジ時代の製造業を切り開く『ひらめき・こと・もの・ひと』づくりプログラム」、「国際人育成のための留学プログラム（オーストラリア等）」など、特色あるプログラムが進められている。どれも魅力的なプログラムであるが、結果として、時間割等が過密になり、学科での学業と教職課程との両立が難しくなるという状況もみられるようである。

本報告書を、教職課程を設置する学部・学科が、それぞれの学部・学科の将来構想と教職課程のあり方を議論する契機としたい。

IV 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

①大学の最高意志決定機関である「大学協議会」において、令和4年度における「教職課程自己点検評価」の実施、ならびに、詳細については「教職課程全体を統括する全学な組織である教職課程運営委員会において協議しながら進めること」を決定。

(令和4(2022)年2月21日)

②教職課程運営委員会において、「教職課程自己点検評価」の進め方の協議・決定

(令和4(2022)年7月20日)

③各学部教務委員長を中心に、各学部の「教職課程自己点検評価」を実施し、共通教育部・教職教育部門と教育支援センター・教職課程担当に「報告」提出

(令和4(2022)年7月20日～令和4(2022)年9月20日)

④教育支援センター・教職課程担当において「法令由来事項」や「各種データ」の点検

(令和4(2022)年9月20日～令和5(2023)1月14日)

⑤共通教育部・教職教育部門において「教職課程自己点検評価」(案)の作成

(令和4(2022)年10月3日～令和5(2023)年1月20日)

⑥教職課程運営委員会において「教職課程自己点検評価」(案)の検討ならびに決定

(令和5(2023)年1月25日)

V 現況基礎データ一覧

令和4年5月1日現在

法人名 学校法人五島育英会																			
大学・学部名 東京都市大学 理工学部 情報工学部 メディア情報学部 人間科学部 東京都市大学大学院 総合理工学研究科																			
学科・コース名（必要な場合） 理工学部 機械工学科、機械システム工学科、電気電子通信工学科、医用工学科、応用化学学科、原子力安全工学科、自然科学科 情報工学部 情報科学科、知能情報工学科 メディア情報学部 社会メディア学科、情報システム学科 人間科学部 児童学科 総合理工学研究科 機械専攻、電気・化学専攻、共同原子力専攻、自然科学専攻、建築・都市専攻、情報専攻																			
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等																			
① 昨年度卒業者数	<table border="0"> <tr> <td>工学部</td> <td>704名</td> </tr> <tr> <td>知識工学部</td> <td>313名</td> </tr> <tr> <td>メディア情報学部</td> <td>181名</td> </tr> <tr> <td>人間科学部</td> <td>96名</td> </tr> <tr> <td>総合理工学研究科</td> <td>244名</td> </tr> <tr> <td>工学部</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2020年4月 理工学部に改称</td> <td></td> </tr> <tr> <td>知識工学部</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2020年4月 情報工学部に改称</td> <td></td> </tr> </table>	工学部	704名	知識工学部	313名	メディア情報学部	181名	人間科学部	96名	総合理工学研究科	244名	工学部		2020年4月 理工学部に改称		知識工学部		2020年4月 情報工学部に改称	
工学部	704名																		
知識工学部	313名																		
メディア情報学部	181名																		
人間科学部	96名																		
総合理工学研究科	244名																		
工学部																			
2020年4月 理工学部に改称																			
知識工学部																			
2020年4月 情報工学部に改称																			
② ①のうち、就職者数 （企業、公務員等を含む）	<table border="0"> <tr> <td>工学部</td> <td>408名</td> </tr> <tr> <td>知識工学部</td> <td>222名</td> </tr> <tr> <td>メディア情報学部</td> <td>160名</td> </tr> </table>	工学部	408名	知識工学部	222名	メディア情報学部	160名												
工学部	408名																		
知識工学部	222名																		
メディア情報学部	160名																		

					人間科学部 93名 総合理工学研究科 217名
③	①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)				工学部 12名 知識工学部 8名 メディア情報学部 1名 人間科学部 87名 総合理工学研究科 1名
④	②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)				工学部 3名 知識工学部 3名 メディア情報学部 0名 人間科学部 18名 総合理工学研究科 0名
	④のうち、正規採用者数				工学部 1名 知識工学部 2名 メディア情報学部 0名 人間科学部 18名 総合理工学研究科 0名
	④のうち臨時的任用者数				工学部 2名 知識工学部 1名 メディア情報学部 0名 人間科学部 0名 総合理工学研究科 0名
2 教員組織 (教職課程科目)					
	教授	准教授	講師	助教	その他 ()
教員数	7名	9名	2名	0名	